

新理事就任ご挨拶

特定非営利活動法人スペシャルオリンピックス日本・長野

理事 杉本幸治

このたび、新たに理事に就任しました杉本幸治です。

突然の指名で恐縮するとともに、お役にたてるかどうか心配をしています。

私がSO活動を知ったのは、1998年に開催された長野オリンピックの組織委員会でボランティア関係の仕事に関わっていた時でした。大阪のボランティアの方から、パラリンピックのほかに、知的障がいの方を対象にしたスペシャルオリンピックスという世界大会が開催されていると聞いたのです。

その世界大会が2005年に長野で開催されるとは、よっぽどの縁があったのでしょうか。大会の期間を通し、エムウェーブにボランティアとして夫婦で参加しました。競技種目はスケートでした。ディビジョニングが行われ、競うことよりも表彰を大事にする大会という印象を受けました。

大会期間中に、SO活動に関わっている皆さんとの出会いがありました。東京でバスケのプログラムを行っている諏訪なほみさんから、「この活動は楽しいから駒ヶ根でも始めて下さい。」と言われました。

大会が終わりしばらくたった頃、ボランティアで参加した人を中心に、駒ヶ根プログラムとして卓球を始めたいとの話が持ち上がりました。早速コーチクリニックが開催されましたが、その時の講師が諏訪さんでした。偶然とはいえこれも縁だと思い、コーチとして駒ヶ根プログラムに参加しました。

どのように進めたらよいか模索しながら、週1回のプログラムが始まりました。最初はラケットに当てることもできなかったアスリートが、日に日に上達し、1年が過ぎた時には親から離れて宿泊訓練。2年目には千葉での交流大会に参加、そして試合に敗れば「くやしい、次は勝ちたい」と大きく変化する姿にふれ、この活動の意義を実感しています。

今、長野県においても多くのプログラムが行われています。いままで関わってきた経験を生かし、少しでもお役にたてればと思っていますので、よろしくお願いいたします。

特定非営利活動法人スペシャルオリンピックス日本・長野

理事 松井元

この度、スペシャルオリンピックス日本・長野の理事に就任しました松井元です。

日ごろ、皆様の活動につきましては地区プログラムの一員として関わらせていただいております。'05の冬季世界大会を長野で開催したあの日から、長野県内だけでも数々の地区プログラムが立ち上がり、SOの広がりを感じられることは非常にうれしいことと感じております。また、その反面スペシャルオリンピックスの活動内容まで知っている人はまだまだ少数です。

障がいの有る無しに関係なく、みんなで楽しく活動し、理解が深まっていくよう、理事として広告塔となり各地でPRし、スムーズな組織運営が行えるようマネジメントの観点からもバックアップしていきたいと考えています。みなさまとともに活動していきますので、何卒よろしくお願いいたします。



2009年第9回世界大会アイダホ



世界大会アイダホ 長野選手団 アスリート成績

● 荻原淳一さん	200M 4位	400M 8位
スノーシューイング	400Mリレー	1位
● 大井大輔さん	フィギュアスケート	シングルス 2位
● 中田裕美さん	100M 4位	200M 5位
スノーシューイング	400Mリレー	2位
● 中村文昭さん	クロスカントリースキー	50M 4位 100M 3位
● 丸山智之さん	アルペンスキー	GSL 5位 GS 4位

● 2009年冬季世界大会に参加して

SON・長野 スノーシューイング・コーチ 山田清美

2月2日の結団式に始まった世界大会は、ホストタウンプログラムを加えて約2週間という長い期間となりました。私にとって世界大会への参加は、一度は経験したいと思っていた夢でした。それが今回この様なチャンスを頂き、多くの不安はありましたが、思いきって参加して本当に良かったと思っています。今まで経験したことのない貴重な体験を多く出来た事は、間違いなく私の人生の1ページに書き加えられました。

スペシャルオリンピックスの大会ならではの素晴らしさを特に感じたのは、ホストタウンプログラムでした。ウェザーと言う町の人々との交流は、アスリートはもちろんコーチにとっても心暖まるものでした。また高校生との交流は、競技会場への応援にもつながり、アスリートを更に元気づけてくれました。

大会を振り返ってみて、私自身コーチとしてどのくらいアスリートをサポートできたかは疑問ですが、今の私に出来る範囲で精一杯やれたと思っています。アスリートと共に泣いたり笑ったりの2週間でしたが、体調を崩すこともなく大会を楽しんできました。この経験を更に次へのステップにつなげていけたらと思っています。最後に、応援をしてくれた多くの皆さんに深く感謝いたします。

SON・長野 クロスカントリースキー・コーチ 森 恵美

約2週間というスケジュールで行われた、'09世界大会・アイダホが無事に終了しました。

2月3日に現地入りした私たち選手団は、その日からホストタウンプログラムが始まり、一般家庭のお宅にホームステイをしながら、学校見学などをとおして地元の方々との深い交流ができました。会話などに関して最初こそお互いに緊張していたものの、ホストタウンの方々の温かい心のこもったおもてなしにその緊張も溶け、別れは涙となりました。

7日には開会式が行われ、その後7競技それぞれの会場に分かれ競技に臨み、クロスカントリースキーは4名のアスリート全員が最高の笑顔とパフォーマンスを見せてくれました。

私にとって初めての世界大会で不安もありましたが、ホストタウン、競技会場などでのボランティア、スタッフ、応援の方々の優しさや絆を肌で感じる事ができ、本当に言葉では言い表せないほどに感動しました。Team2009が解散し寂しい気持ちもありますが、今回得たものをSO等の活動で活かしながら、アスリートのみなさんに負けないように私自身も成長していきたいと思っています。

● 冬季世界大会の応援に参加して

SON・長野 ファミリー 中村晴文

さる、2月7日から2月13日までアメリカのアイダホ州ボイジをメイン会場に行なわれた冬季世界大会に、応援のツアーで行ってまいりました。途中からの参加の為、フロアホッケー、クロスカントリースキー、閉会式のみのお手伝いでしたが、世界中のアスリートがそれぞれの種目に目標と誇りを胸に参加している姿を見ていると、とても嬉しい気持ちになりました。

ファミリーや観客の応援のスタイルは各々に違いがあり、興奮のあまり国の名前を連呼(望ましくない姿ですが)して応援に熱中するグループ、ゴール寸前の観客席で、目の前を通り過ぎてゆくどの国かも解らないアスリート達の為にその場にいる観客、ファミリー、出場種目の無かったアスリート達が”GO!GO!GO!”と連呼しながら応援している姿には、とても感銘を受けました。

試合会場などにおいて、怒ったり、怒鳴ったりして周りを不安にさせるような姿は一度も無く、どの国もコーチはアスリートを暖かく見守り、ボランティアの人達も急がず慌てずにアスリート達を笑顔で包み込んで、スタート前の緊張と寒さのアスリートをリラックスさせている姿はとても微笑ましいものでした。

そして私たちファミリーにもボランティアの人達は、ほんとうにやさしく笑顔で声を掛けられていて、異国の地に来た人を心からもてなしていただきました。お互い言葉が解らなくても心と心が通じあえば、わかりあえることを実感することができた大会でした。

今回、ボランティアの人達は自分自身も心からとても楽しんで参加しているようにも思えたとても素晴らしい大会でもありました。



● アイダホの感想

SON・長野 軽井沢 アスリート 丸山智之

スペシャルオリンピックス世界大会は楽しかった。もう1回いきたい。ホストファミリーのロバートさんとノラさんがとても優しくうれしかった。アメリカは良かった。大会も良かった。飛行機も揺れたけど楽しかった。メダル取れなかったけど、でももう1回行きたい。



SON・長野 軽井沢 アスリート 荻原淳一

世界大会で金メダル取りました。いろいろな国の選手に会ってきました。



SON・長野 軽井沢 スノーシューイング・アスリート 中田裕美

開会式の時、私はドキドキしました。私は、スノーシューイングの100Mと200Mとリレーに出場しました。200Mは5位で100Mは4位、そしてリレーは2位でした。走っているときは疲れるけど、ゴールのときは嬉しかったです。

私は聴覚障がい者ですので、アメリカのろう者のアスリートに会えて嬉しかったです。

ホームステイは、シズさんの家に泊まりました。ベッドがとても大きくて枕が3つもありました。とても嬉しかったです。



SON・長野 長野 アスリート 中村文昭

ほかにアイダホに行って
クロスカントリーたてました。
どうメダルと4回のリホンを
とりました。にほんのクロス
カントリーのアスリートがメダル
をとったとき、ほかにリホンを
でした。つぎはメダルがとれ
てよかったです。
ほかのくつのアスリートや
ホームステイをしたおうちの
ひと、ユナ、たくまんと
おちができました。
みなさん おうえん ありが
とうございました。

なかむらふみあき



SON・長野 長野 アスリート 大井大輔

冬季世界大会・アイダホ
行って来ました。

僕は、フィギュアスケートに出場
して 銀メダルをもらいました。
とてもうれしかったです。☺
今度は、金メダルをもらえる
ように、いっぱい練習が
んばりたいです。

大井 大輔



SON・長野設立10周年記念 2008年第2回スペシャルオリンピックス日本・長野 夏季地区大会



2008年第2回スペシャルオリンピックス日本・長野 夏季地区大会を終えて 上田地区プログラム 大会実行委員長 宮下和彦

2008年9月7日、上田市にて開催されました夏季地区大会には県内の7地区・SON愛知・SON富山より参加のアスリート120名、ファミリー、ボランティア約200名の参加のもとにバスケットボール・テニス・水泳・陸上競技・ボウリングの5種目の競技が行われました。いうまでもなくSOの競技会は日常的なスポーツトレーニングの成果の発表の場でもあり、また競技会を通して地域のコーチ、ボランティアとの交流の場でもあります。日頃の練習の成果以上の記録を出せたアスリート、大勢の応援のなか緊張し日頃の成果が出せなかったアスリート、皆、結果は様々でしたが楽しい思い出が作れたかと思えます。もちろん今回の競技会に参加したボランティアの皆様もアスリートの成長に感動し勇気付けられた1日であったかと思えます。当日は、天候にもめぐまれ各競技会場では歓声があがっていました。あらためてSOのすばらしさを実感できた1日ではなかったでしょうか。また日程等の都合で同時に開催できなかった卓球の競技会も10月25日駒ヶ根市にて実施され盛大に楽しく開催されましたこと、あわせてご報告いたします。SON・長野設立10周年を記念し計画されました今回の競技会を盛り上げていただきました上田市・駒ヶ根市はじめ、大会開催に協賛・ご協力いただきました企業・団体・個人の皆様、夜遅くまでの打ち合わせ、各担当での事前・当日の準備等でご尽力いただきましたすべてのスタッフの皆様にご心より感謝申し上げます。



初めての大会「楽しかったな♪」

上田地区プログラム ボランティア 倉島紗弥香

県内外から多くのアスリートが参加するこのような大きな大会に、日常プログラムに参加してから半年の私が務まるか心配でしたが折角の機会なので思い切って参加させて頂きました。

私はバスケットボールのボランティアに参加させて頂きました。バスケットボールはチーム競技と個人競技の2つがありました。お手伝いさせてもらっての率直な感想は、アスリートの方々はとても生き生きとしていて、時には負けて悔しそうなお表情をしていても、精一杯やったという

達成感が見られ、見ている私もとても幸せな気分になりました。

閉会式に参加していた多くのアスリートの表情は満足感に溢れ、どの競技もいい大会ができたんだなと感じました。

今大会全体を通じて感じたことは、SOに参加している人たちは体全身で伝える不思議な力があるということです。私はこれからもこの活動に携わり、一人でも多くの人に広めたいと考えています。

夏季地区競技会卓球部会in駒ヶ根

駒ヶ根地区プログラム 代表 堀内豊彦

10月25日駒ヶ根市の市民体育館に於いて駒ヶ根市長はじめ、長野・上田からの皆さんが応援に駆けつけていただきました。また、ボランティアとして市内の5つの小中学校の子供たちと福祉系サークルや市体育協会審判の皆さんの参加で盛大に開催されました。

卓球プログラムが始まって4年、アスリートの皆さんの成長は目を見張るほど進歩しました。卓球台からこぼれた球を見ているだけだった皆さんが真剣に球を追い、時にはウルトラCのプレイが決まることも。今年は特製聖火台とトーチで点火式から始まり、途中では市長さんも一緒に陣取りゲームなどのアトラクションで楽しみました。卓球プログラムは県内には他にないため外の風にあたるのが少ないので、来年のナショナルゲーム(大阪)に向け本年は他県の競技会にも参加してみようと只今もう特訓中。



SON・長野 上田 アスリート 李郁

SON長野夏季地区大会で
ほくは、ボウリングに出ました。
うまくできました。
メダルをもらいました。
学校の先生ともだちも見せました。
みんながすごいといはしてくれました。
李郁

SON・長野設立10周年記念 「井上あずみ」チャリティコンサート

「10周年記念コンサート」報告

長野地区プログラム 代表 新井 昇

10月11日(土)、長野市民会館でSON・長野10周年を記念して、『となりのトトロ』の主題歌でおなじみの井上あずみさんのコンサートを開催いたしました。このコンサートは、単にチャリティとして活動資金を集めるというだけでなく、SON・長野の活動を再度長野県民の皆様に周知を行い、10年という節目を新しいスタートとしていく為に行うという目的があり、その為に、事前に信濃毎日新聞全県版一面広告を出しました。当日は長野地区ファミリー、ボランティアの皆様をはじめ、県内他地区の皆様、事務局のご協力のお陰で800人の動員がありました。コンサートに先立ち、SON・長野の10年の歩みの放映、SOI冬季世界大会アイダホに参加する皆様の壮行会を行い、その後、井上あずみさんに歌っていただきました。来場された皆様には、大いに楽しんでいただけたと思っています。コンサート開催にあたりご協賛いただいた企業の皆様、企画運営を行っていただいた(株)ながのアドビューロのご担当者様、共催いただいた信濃毎日新聞社様、長野地区ファミリー、ボランティアの皆様、そして事務局に御礼を申し上げ報告いたします。

